成都市とアジアキャラバン事業について

上海産業情報センター
横江　隆弘

今月は、先月に引き続き、中国の西部大開発の中心地のひとつである成都市及びその成都市で開催された「第１２回中国西部国際博覧会」及びジェトロが現在行っているアジアキャラバン事業の概要を報告します。成都市といえば、中国四大料理の一つ四川料理で有名な四川省の省都であります。先月報告させていただいた重慶市とは、約３００キロメートルしか離れておらず、動車（中国の新幹線）で約２時間余り、車を利用すれば約４時間の距離にあります。重慶市は、直轄市でありどちらかというと政治力が目立っていますが、経済力及び消費力においては、成都市は、現在のところ重慶市を大きく上回っていると言われています。

１　成都市の概況

成都市は、パンダで有名な四川省の省都であり、中国西南地域の要所であります。人口は、約１，１００万人であり、面積は１万２，０００平方キロメートルを超えるほどあります。成都市は、三国時代に活躍した劉備や諸葛孔明などのゆかりの土地として日本人にもよく知られていることと思います。また、成都市は、天府の国と呼ばれてきた肥沃な四川盆地の中心に位置しており、唐の時代から蜀綿を産出ており、綿城という別称を持っています。

２００９年の成都市のＧＤＰの総額は、約４５００億元であり、一人当たりＧＤＰは、約４万元であり、重慶市のそれよりも高い数字となっています。隣の重慶市は直轄市ということもあり、政治的色彩がどちらかというと強い印象がありますが、成都市は、２０００年に始まった西部大開発の拠点都市として市場マーケットが急速に発展しており、２００８年には四川大地震により被害を受けましたが、市の中心の経済の成長は目覚ましいものがあります。

イトーヨーカドー・伊勢丹が早くから進出され、４店舗を展開されているイトーヨーカドーの２号店などは、同社における売り上げ世界一を記録するなどの好調ぶりであるそうです。

また、四川省に点在する多くの世界遺産（九寨溝・黄龍風景区、峨眉山・楽山大仏、パンダ保護区）の観光基地となっているほか、多くの観光客にとってチベット旅行の入口になっています。

２　第１２回中国西部国際博覧会について

第１２回中国西部国際博覧会（以下、「西部博」という。）は、国家発展和改革委員会を始めとする中国政府１５の機関と重慶市、四川省、貴州省、雲南省、チベット自治区、陝西省、甘粛省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区、内蒙古自治区、広西チワン自治区の西部１２の省（市、自治区）と新疆生産建設兵団の主催によって、２０１１年１０月１８日から同２２日まで、成都市世紀城新コンベンションセンターで開催されました。

西部博は、２０００年に西部大開発戦略を実現実施するために誕生し、西部大開発の中で成長、西部大開発に大きく寄与してきました。今年１２回目を迎えた西部博は、メイン会場の面積が１２万平米に及び、西部合作館、国際合作館、ハイテク技術館、電子情報館、装備製造館、農業産業館の６つのパビリオンが設けられていました。参加国は、世界１０５か国にのぼり、出展企業数は、３，７００社に上り、メイン会場の来場者数は、６０万人を超えたとのことです。

実際に、２１日と２２日の一般開放日には、足の踏み場もないような状況となり、一時入場規制が行われたりしていました。あたかも上海でのモーターショーを彷彿させる盛況ぶりで、成都の発展、西部地域の発展を象徴しているかのようです。わが県とのつながりは、現在のところまだまだ深いというわけではありませんが、観光にしろ、エアポートセールスにしろ、いずれの産業もこれから年々発展を続けることは、間違いないと思います。

西部博　ジェトロブースの様子

３　ジェトロアジアキャラバン(中国)事業について

ジェトロでは、昨年から日本の日用雑貨・生活用品の対中輸出促進を目的として、アジアキャラバン(中国)事業が実施されています。日本の中小企業を対

象に、上海市の常設ショールームでの商品展示や中国各地での商談会、百貨店・ネットでのテスト販売を行いながら、中国進出の可能性を探るための事業です。

第２期目となる今年度は、９６社の中小企業が参加されています。因みに愛知県から参加されているのは、５社になります。

ショールームでの展示を除くと、上海国際ギフト展への出展、天津伊勢丹デパートでのアンテナショップに続いて、この成都西部博での取組みは、今年度３回目の大きなイベントになりました。今回のキャラバン事業で招聘したバイヤー数は６２社で、実施された商談は、１６５件に上りました。

また、西部博日本館内に出展するジェトロブースでは、「GOOD GOODs JAPAN」事業商品を展示するほか、日本の地域活性化のための広報ブースを設置し震災からの復興に向けた取り組みを紹介するとともに、各自治体が作成した観光、産業等のPR用パンフレットを配架配布し、来場者に広報しました。愛知県としては、一般入場者に、愛知県観光パンフレットとバッチを配布して愛知の観光をPRしました。全体的には、震災後の影響もあり、来場者は日本各地の観光資源に対する認識度も低いように感じましたが、訪日したいという意欲を持つ方はかなり多いようで、一部の人からは、非常に関心がありぜひ訪問したいという反応を得ることができました。

上海産業情報センターでは今後も中国各地の状況に注視していきたいと考えております。